

- E社は、住宅の増改築リフォームを中心に事業展開している建築会社である。
- 二代目である社長は40代、社員も20代～30代が中心の若い会社である。一般的に、転職を繰り返している人の採用について「すぐに辞めてしまうのではないか」と身構えてしまうものである。E社でも不安を感じない訳ではないが、創業者である会長が会社を設立する前に、職を転々としていたということもあり、広い目で本人を見ようという姿勢がある。
- また厚生労働省の、若年者等正規雇用化奨励金の制度を活用することで、若い人材の育成は社会的な課題と感じ、「会社としても長い目で人を育てていかないといけない」という気持ちになる、という。
- そのような同社の、社員に対するまなざしは温かい。特に総務・経理を担当している社長の奥様は、お母さんの様な立場で若い社員に接している。顧客への

対応や、書類の取り扱い、社会保険のしくみについての説明など、会社の業務に関することだけではなく、社会人としての常識やスキルについてもきめ細やかに指導している。

- 建築業界は現場仕事が多く、身体が資本の仕事である。若い独身社員は、どうしても栄養が偏りがちになるため、社員の食生活には特に気にかけているという。会社で餃子パーティをしたり、社長がよく夕飯に連れて行ったりしている。猛暑だった2010年の夏は、全員に月1万円の氷代を支給して乗り切った。

- 会社の面倒見のよさは、社員の間にも引き継がれており、先輩社員は、後輩に対して丁寧に指導にあたり、後輩も同じように次の後輩に、と良い循環が生まれている。会社全体が大きな家族のような一体感に包まれている。